



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	HUSCAPレター 第22号 : 私の研究 : 亀野淳 高等教育推進機構・准教授 「仕事における大学教育の有効性と学生時代の学習熱心度の相関に関する定量的分析 : 北海道大学における卒業生へのアンケート調査の分析結果を通して」
Issue Date	2012-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/88207
Type	journal
File Information	hletter22.pdf



北海道大学学術成果コレクション

HUSCAPレター

本学では2005年度から学生による授業アンケートの評価平均点が上位となった授業担当者を「授業アンケートによるエクセレント・ティーチャーズ」として公表しています。今回は特別講義「大学と社会」(2010年度)及び「キャリアデザイン」(2009・2010年度)でエクセレント・ティーチャーに選出された亀野先生にお話を伺いました。



私の研究

亀野 淳

高等教育推進機構准教授

私は大学の経済学部を卒業後、旧労働省（現厚生労働省）に入省し、いわゆる霞が関で約9年間、政策の企画・立案や労働市場の分析を行い、また、経済企画庁にも出向し、国の長期経済計画の立案等に携わってきました。この間、日本経済は円高不況、バブルによる好景気、そしてバブル崩壊後の長期停滞を経験しました。この長期低迷から脱するため、いろいろな対策が実施されましたが思うような効果はあがらず、私は別の道を歩み、2001年から北大で教育研究活動に携わっています。

こうした中で感じたことは、日本の発展を支えたのは人材であり、この低迷から脱するのも人材の育成が基本であるということです。したがって、私は北大で勤務するようになってからも、研究面でも教育面でも「人材育成」をキーワードとして取り組んでいます。

この論文、HUSCAPで公開したいけど、著作権は大丈夫？
→その疑問、図書館で解決いたします！

図書館ではHUSCAP公開可能かどうか、刊行元の著作権ポリシーをお調べいたします。
どうぞお気軽に(repo@lib.hokudai.ac.jp)までお問い合わせください！

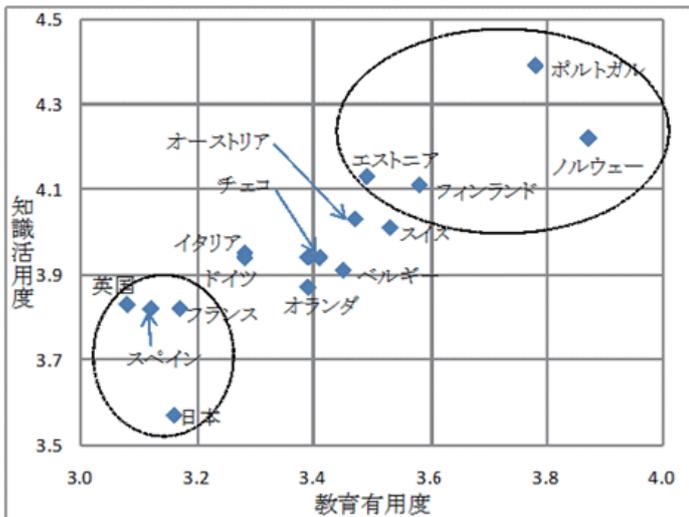
まず、研究面での大きなテーマの一つは「大学教育は社会に出てから仕事をする上で役立つのか？役立つために何が必要か？」ということです。私は「役立つ」という信念のもとでインターンシップなどの産学連携教育の有効性やそのケーススタディとしてフィンランドにおける高等教育システムについて研究をしています。また、教育面でもキャリア教育やインターンシップを担当していますが、これらの教育活動は決して就職支援ではなく、大学教育と卒業後の社会がどう関連しているかについて学生自ら考え、有意義な学生生活を送ってほしいということからスタートしています。

つまり、私の研究活動と教育活動の大きなテーマ設定は同一です。以下で研究の一部を紹介します。

大学教育の有用度を証明することは簡単ではありませんが、そのひとつの方法として卒業生に対するアンケート調査の自己評価による指標を用いて統計的に分析をしています。ここでは、図1の日欧諸国の高等教育機関卒業生に対する調査(以下「日欧調査」という)と図2の北海道大学の卒業生に対する調査(以下「北大調査」という)を紹介します。

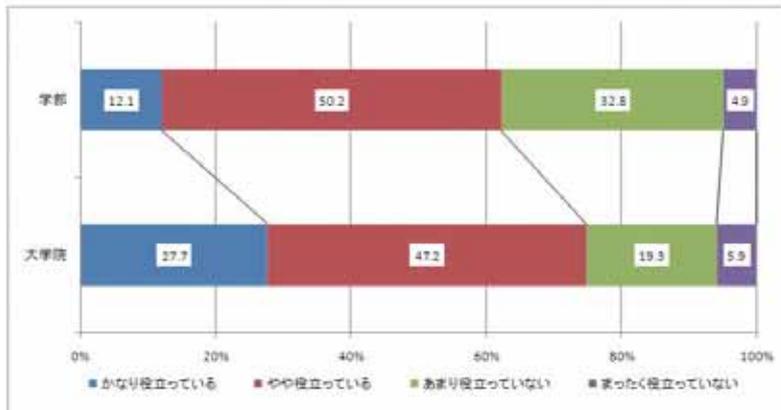
日欧調査により、教育有用度や知識活用度をみると、日本は、英国、スペイン、フランスなどとともに低くなっており、北欧諸国やポルトガル、エストニアなどが高くなっています。

(図1) 知識活用度、教育有用度の国別状況



注) 1. 知識活用度は「現在の仕事では、自分の持っている知識や技能をどの程度使っていますか」という設問に対して、(とてもよく使っている)=5 ~ (まったく使っていない)=1 の平均値
2. 教育有用度は「高等教育の教育課程で学んだことが「現在の仕事を遂行していくうえで」どの程度役立っていますか」という設問に対して、(とても役に立っている)=5 ~ (まったく役に立っていない)=1 の平均値

(図2) 大学で学んだことが現在の仕事に役立っているか



つまり、知識活用度と教育有用度とも高いグループと低いグループに分かれており、国別にみた場合、これら二つの指標は明確な相関があることがわかります。教育の有用度が国ごとに異なる要因、特に、日本が低い要因を探ってみると、卒業後の職種や組織の形態の違い、あるいは組織内での責任の大きさや仕事の進め方にも影響があることがわかりました。

北大調査では、同じ大学の教育を受けた者でも、有用性の回答にばらつきがみられますが、この違いの一つの要因として勉強の熱心度があげられました。

このように、教育の有用性は教育内容そのものだけではなく、学習環境や労働市場、組織の状況などとも関連していることに注目する必要があります。

しかしながら、大学教育と仕事上の能力をつなぐメカニズムもまだまだ不明確であり、また、上記の研究があくまでの本人の主観による回答であるという限界があります。この点はこれまでとは異なった分析手法が必要になるのではないかと考えています。

関連する研究成果についてHUSCAPで公表していますのでアクセスしてみてください。どなたでも無料でアクセスでき、全文を確認できるので非常に便利です。

エクセレント・ティーチャーに選出された理由はよくわかりませんが、学生の皆さんが大学教育の意義を考え有意義な大学生活を送り、将来、多くの卒業生が社会のリーダーとして活躍していただければ私の研究や教育が少しでも役立つのかなと嬉しく思います。

HUSCAP で亀野先生の研究成果を読むことができます。

仕事における大学教育の有効性と学生時代の学習熱心度の相関に関する定量的分析：北海道大学における卒業生へのアンケート調査の分析結果を通して

高等教育ジャーナル：高等教育と生涯学習
= Journal of Higher Education and Lifelong Learning
第17巻 2010年1月：25-35
<http://hdl.handle.net/2115/47989>